

## どうでもいいことなど一つもない～書く力が核になる～

明日5月21日は、二十四節気の一つ『小満（しょうまん）』だそうです。小満は木々が青々しく万物の成長する頃を言い、立夏から数えて15日目に当たります。「陽気盛んにして万物しだいに長じて満つる」という意味で、木々が若葉に覆われ青々しく万物の成長する頃で、やや汗ばむような陽気と言えます。この頃は関東でも真夏日になることもありますが、本格的な梅雨を予感させる走り梅雨のシーズンでもあるそうです。最近、やや汗ばむ陽気の日や走り梅雨のような陽気の日がありますね。寒暖差が激しいので、体調等崩さないようにしましょう。

さて、今週5月18日（水）に今年度初めての定期テスト（中間テスト）が行われました。1年生にとっては初めての定期テストでした。緊張しながらもテスト問題に真剣に取り組んでいました。2年生、3年生にとっても今年度初めての中間テストでした。決意を新たにテストに臨む、一人一人の真剣なまなざしがとても印象的でした。これからは結果が返ってきますが、他人と比べるのではなく、間違えた問題を復習し、次につなげていくことが大切になります。頑張ってください。

### どうでもいいことなど 一つもない

毎日の清掃 給食の準備 宿題はもとより 毎日しっかり日記に書く  
忘れ物をしないこと 一枚のプリントの記名にいたるまで

### どうでもいいことなど 一つもない

自主ノートや一枚のプリントや宿題 さらにには日々の清掃などに 本気で取り組むか  
それとも「どうでもいい」と考えて 表面だけを取りつこうか

その差は ほんのわずかなように見えるが やがては決定的な差を生む (著：有正 省三)

玉幡中では自分を変えようと前向きな気持ちで全学年が学校生活を過ごしています。一つずつ小さなことからできるようにしていこうじゃないですか。今まで「どうでもいい・・・」と考えて気を抜いていたようなことからしっかり取り組んでみましょう。みんなでやっていきましょう。みんなでやるとは一人一人がやるということ・・・。玉幡中にはどうでもいいことなど一つもありません。そしてどうでもいい人など一人もいません。頑張りましょう。

また、玉幡中の生徒は、日記（1年：aoharu ノート、2年：PDCノート、3年：やりとり帳）に日々のことや思いを書き続けています。「**書く力は思う数倍!**」という言葉があります。書くことで思いがカタチになります。日記を書くことは、自分を見つめたり、自分と向き合う大切な方法です。また、日記に前向きな言葉、夢、目標を記していくことが、その達成の第一歩になるでしょう。たった一度の中学校生活です。そのかけがえのない日々を「自分史」として日記（1年：aoharu ノート、2年：PDCノート、3年：やりとり帳）に記していくことは有意義です。**書くは学びと成長の核となります。**中間テストが終わり、これからは校外学習や中巨摩総体に向かうこととなります。この機会に勉強も日記もしっかり「書くこと」に意識を向けてはどうでしょうか。



## 子育て談話室①～視野広げ、自由に生きる～

ゴールデンウィークも終わり、しばらくは日常的な日々が続いていきます。ただ世界情勢に目を向けると、非常に悲しい状況が続いています。子どもたちに対する伝え方は難しい部分もありますが、当たり前前の日常のありがたみを忘れてはいけないということは、子どもたちにもわかってもらいたいと思っています。

さて、現代社会は、情報があふれて、何が正しくて、何が価値あることなのか、ということが不易なのかなど、とてもわかりにくい時代となっています。この難しい時代に、“子育て”という一大事業を行っている保護者の皆様方に、私なりに大切にしたいほうがいいと考える『子育てのポイント』を提案させていただくのが、このシリーズです。昨年度も『学校だより 風の記憶』のなかで紹介させていただきました。少しでも皆さんの今後の子育てに役立てていただけるようなシリーズにしていきたいと思えます。今年度もお付き合いの程よろしくお願ひいたします。「どうして勉強しないといけないの？」とお子さんに聞かれたら、みなさんはどう答えますか？その究極とも言える問いについて書かれた文章があります。一読いただければと思います。

### 「どうして勉強しないといけないの？」

この普遍的な命題への答えは、立場や成長段階に応じてさまざまでしょう。皆さんは中学生に対してどう答えますか？

#### (1) 「安定して高給を得られる大企業に行くには、上位の高校・大学に進学しないと」

よく聞く論ですが、そこまで断定的に語るのは大人として据わりが良くないうえ、多感な年代の子は、こうした現実的だが功利的な言葉に忌避感を示し、響かない可能性も高そうです。「将来の職業を選べる立場に立てるようになるため」くらいの言い方の方が届きやすいかもしれません。

#### (2) 「将来使わないように思える勉強内容も、一般教養として人生を豊かにしてくれる」

初めて会った人と何げない共通の話題で意気投合した時、また旅先でその地方の特色や歴史に触れた時の感動などは、確かに心の豊かさに直結します。東進の林修先生、クイズ王の伊沢拓司さんのような専門外の知識の豊富さは、一般教養の深さや応用と言えそうです。

(3) 「より複雑化し混迷を極める現代社会において、まだ答えのない課題に直面した時、自ら思い、論理的に考え、仲間と議論し合いながら乗り越える必要がある。勉強は、将来君たちが新しい技術や製品、社会のあり方を生み出すために必要な頭の基礎体力になる」

この辺りこそ令和日本の教育が目指す本筋です。幼いうちから勉強を通じて課題を克服する経験を重ね、できなかったものができるようになる自信を手に入れる。その過程で苦手なことを乗り越える根気強さなど、人間的な成長も遂げられます。学歴は、逃げずに努力を重ねられる人であることの証明として社会から見なされている側面もありますよね。

#### (4) 「学ぶのは、より自由になるためだ」

中学生には少し難しいでしょうが、これは私自身の実感です。既に身につけている人生観とは異なる立場に根ざした知見を学ぶことで、視野が広がり、今までより伸びやかに考えられるようになる感覚です。「何でもは知らないわよ。知ってることだけ。」とは、あるアニメの優等生キャラが言う決めゼリですが、知らないことが存在していると自覚できるのは一つの見識です。自分は未完成。だからこそ学ぶ必要があるのです。

#### (5) 「知は力なり」

アニメで締めるのも気恥ずかしいので、哲学者フランシス・ベーコンの言葉で筆をおきます。

(著：井沢伸平)



